

講師：大阪音楽大学講師 北見 真智子氏 講談師 玉田 玉秀齋氏

教室：☆茨木市 クリエイトセンター

教室

				午前 (10:00~11:50)		午後	
回	月	日	曜	学習テーマ		講師	概要
1 学期	1		5	金	入学式		
	2	4	10	水	概観・日本の芸能と音楽 (日本で伝承されている芸能や音楽は、起源やスタイルを異にしつつ、長い歴史の中で育まれてきました。幕末の黒船到来から開国、明治維新は、芸能や音楽の世界において、大転換の時期を迎えることになりました。)	北見	オリエンテーション ☆
	3	5	8	水	海外から見た日本音楽 (明治維新は西洋音楽の日本への導入を盛んにしてきましたが、同時に、西洋諸国に日本音楽を知らせる機会を増やしました。当時の西洋の人たちがどのように日本音楽をとらえていたか、様々な音楽を例にひも解きます。)	北見	ホームルーム (クラス活動 内容の検討) ☆
	4	6	12	水	唱歌と童謡～西洋音楽の移入 (明治維新前後、学校音楽でも欧米の音楽の輸入、消化につとめました。明治期には学校教育用に創作された「唱歌」が誕生し、大正期には子どもに歌われることを目的に作られた創作歌曲が童謡運動となって開花します。)	北見	☆
	5	7	10	水	能の大衆化～江戸幕府と諸大名の没落 (能は14～15世紀にかけて成立した総合的な舞台芸術です。江戸時代には幕府の保護のもとにありましたが、明治維新による幕府と諸大名の没落をきっかけに、能楽界は混乱の時期を迎えます。)	北見	クラス活動 ☆
	8				夏休み		
2 学期	6	9	11	水	能・世阿弥の言葉～伝書の発見 (明治42年、『能楽古典 世阿弥十六部集』と題された本が吉田東吾によって刊行されました。これを機に、これまで世の中に知られることのなかった世阿弥の業績や多くの言葉が明らかとなります。)	北見	☆
	7	10	9	水	歌舞伎と改良運動 (近代化の波は、歌舞伎界へも様々な影響を及ぼしました。それまで庶民に人気のあった演劇を、これからは上流階級の人々の鑑賞に堪える高尚なものにしたいとする考えが生まれ、演劇改良運動が起こります。)	北見	クラス活動 ☆
	8	11	13	水	人形浄瑠璃と新作～文楽座の登場 (江戸時代に三味線が誕生し、語り物音楽である「浄瑠璃」の伴奏に取り入れられた後、人形芝居と結びついて人形浄瑠璃が誕生しました。明治時代に専用劇場の文楽座が開場し、新作活動も盛んになります。)	北見	☆
	9	12	11	水	日本楽器の発明と改良～驚きと憧れと (明治政府が文部省内に設置した音楽取調掛では、取り組みの一つとして「楽器を試製改造し模造すること」を掲げました。これをうけて、様々な楽器の調査、試製、改造、模造が行われました。)	北見	☆
3 学期	10	1	8	水	宮城道雄の活動 (箏曲出身の宮城道雄を中心に、「新日本音楽」と題した活動が推し進められました。それは、日本音楽と西洋音楽、和楽器と洋楽器、そのような枠組みにとらわれず、あらゆる点で自由になることを目指したものでした。)	北見	☆
	11	2	12	水	講談を知り楽しむ (講師所縁の明治期大阪の講談速記本とは何か、これから派生した今なお親しみのある読み物立川文庫 真田十勇士や真田幸村など解説を交えた講談の実演も楽しめます。)	玉秀齋	クラス活動 ☆

一般講座

10回

入学式

1回

10月29日は共通講座・周年事業

11月19日はふれあい交流祭

[注] カリキュラムは変更する場合があります。教室について公共施設を使用しているため抽選による変更があります。